

鈴木花子の秘密事項

- ・家庭の事情で、長女を希望していた短大や専門学校に行かせてあげられなかった。むしろ、早くからアルバイトをしてもらったり、就職してもらったりすることで、家にもお金を入れてもらい、助けてもらった。しかし、長男が中学生くらいの時には、亡くなった夫の事業が軌道に乗り、人並み以上の生活ができるようになり、長男にもお金をかけてあげられるようになった。塾にも行かせたし、希望していた私立大学の理工学部にも行かせてあげられた。しかし、その分、長女に対して何もしてあげられなかったことに対して、心苦しく、申し訳なかったという思いが非常に強い。
- ・長男には鈴木家を守ってもらいたいと思っており、現在の自宅建物は、長男にこのまま住んでもらうのがよいと考えている。
- ・A社は、亡くなった夫が作った会社であり、長男に任せたいと思う気持ちはあるものの、過去、長男が事業に失敗したことを考えると、現状、任せることに不安がある。長女を監査役に入れたのも、いざという時に歯止めをかけるためである。
- ・長男のことは、今でも可愛いと思っており、仲良く暮らせればと思いつつも、物の考え方や価値観などのいろいろな点で相容れない部分が多く、互いに歩み寄ることは難しいと感じている。
- ・面倒を見てくれる長男の妻には感謝しているが、やはり他人であり、時々、自分の遺産を狙っているのではないかと感じることもあり、遺産を与えるつもりはない。